

6 - 14 犬山における地殻変動観測 (1988年7月まで)

Crustal Strain and Tilt Observations at Inuyama

名古屋大学理学部 地震火山観測地域センター
Research Center for Seismology and Volcanology
School of Science, Nagoya University

犬山地殻変動観測点 (旧犬山地殻変動観測所) で観測された1988年7月までの傾斜観測資料について、得られた結果を報告する。各資料の図は、どれでも前回報告²⁾にそれ以降の資料を追加して図示したものである。資料の質や計算処理法に関しては、同報告および前前報告¹⁾に記載されている方法と同一なので参照されたい。

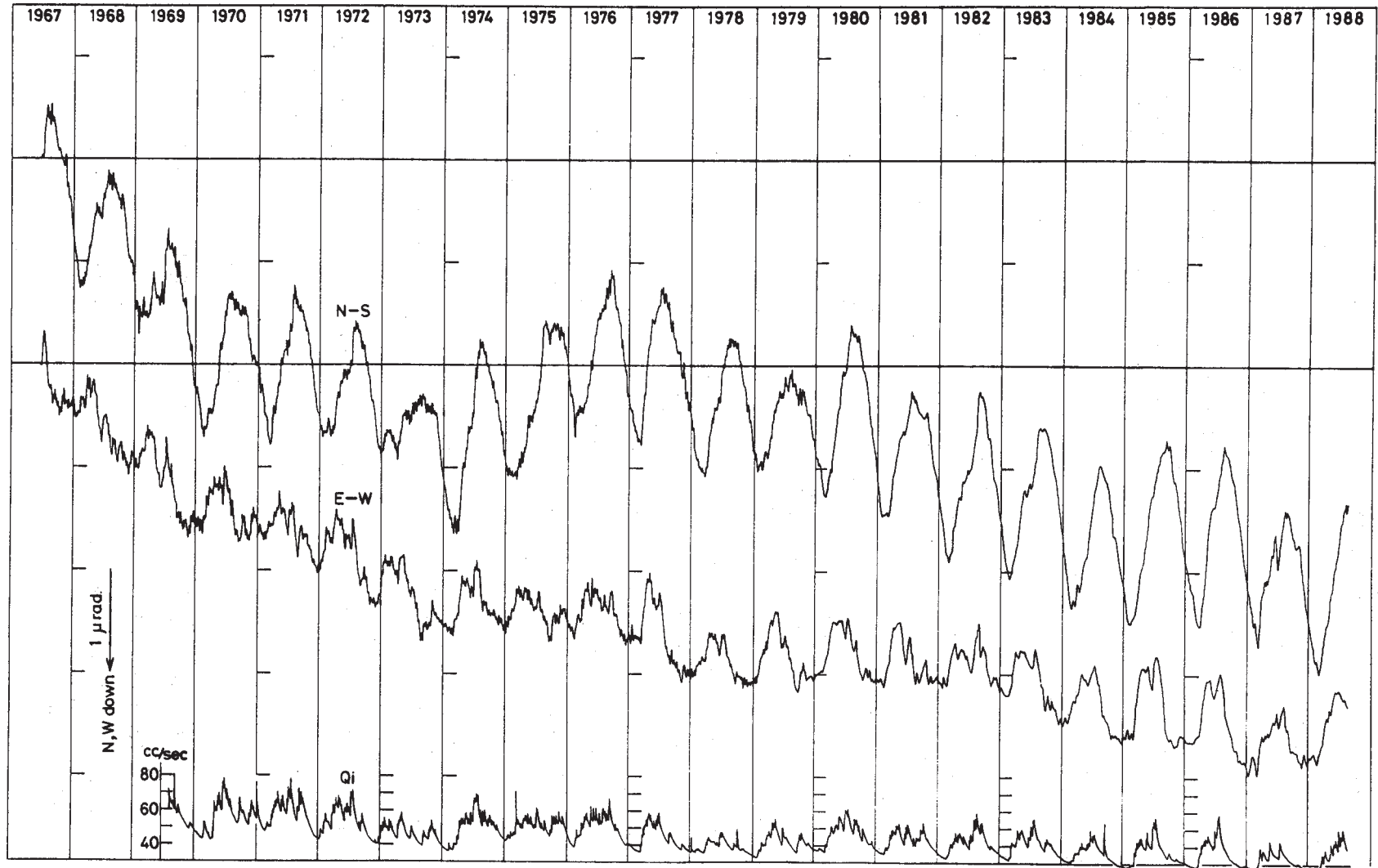
第1図は、基線長30mの読み取り式水管傾斜計2成分による資料である。第2図は、石本式水平振子傾斜計2成分による資料で、全期間を通じて感度更正がしてある。固有周期は経年的に少しずつ変化し、1988年ではNS, EW各成分それぞれ、45秒、61秒になっていて、それぞれが次第に減少および増加の傾向を示している。

各資料の示す変化様式には、特記すべき事柄はあまり認められず、定常的な状態が持続していると判断されるが、特徴的な事項を挙げれば次のようなものである。

- 1) 傾斜変化の長周期成分に特徴的な節目を示す時期がいくつか認められる。最近の例としては、1983～1984年がそのような時期に当たるかもしれない。
- 2) 水平振子傾斜変化および坑内湧水量の年周変化には、短周期成分が次第に減少していくという顕著な傾向がある。この原因は、観測坑を覆う植生の繁茂によるものと考えられる。水管傾斜計のそれについては、読取り間隔が観測後半では長くなっているため、この傾向に関して明確には確認できない。
- 3) 坑内湧水量は定常的に逡減しているが、その上に1)項の変化様式と対応がつく特徴的な長周期変化がある。
- 4) 1), 3)項で認められる特徴は、広域な気象変化、主として降雨の長期変化に起因して現われた可能性が強い。

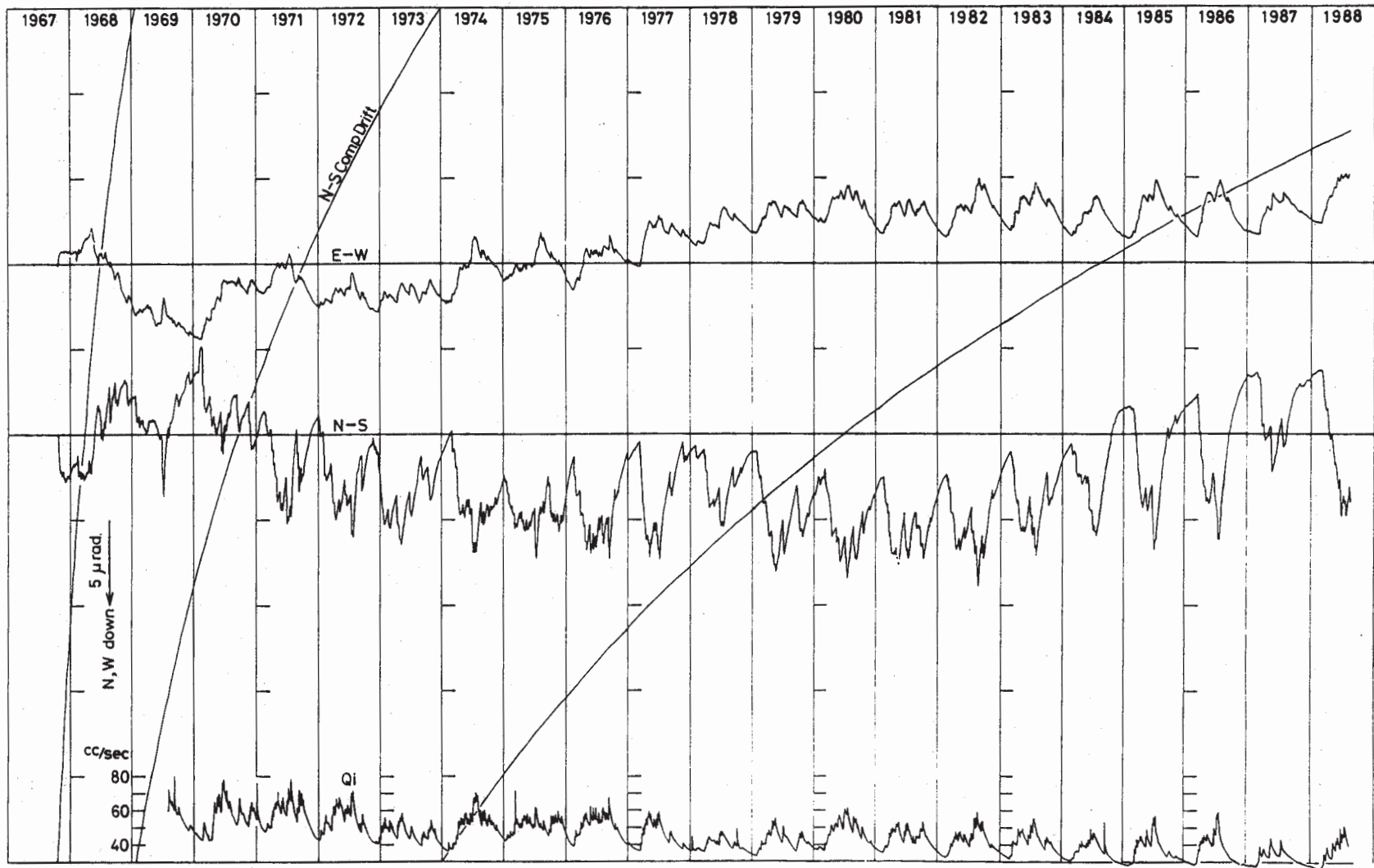
参 考 文 献

- 1) 名古屋大学理学部犬山地殻変動観測所：犬山における地殻変動観測 (1982年末まで), 連絡会報, **30** (1983), 354 - 358.
- 2) 名古屋大学理学部犬山地殻変動観測所：犬山における地殻変動観測 (1986年8月まで), 連絡会報, **37** (1987), 350 - 353.



第1図 犬山における水管傾斜計による傾斜変化と坑内湧水量変化

Fig. 1 Time variation of water-tube tiltmeter readings (smoothed for the elimination of reading errors) and water seepage from the inner part of the vault at the Inuyama Crustal Movement Observation Station.



第2図 犬山における水平振り型傾斜計による傾斜変化と坑内湧水量変化

Fig. 2 Time variation of horizontal pendulum tiltmeter readings (normalized for the sensitivity changes) and water seepage from the inner part of the vault at the Inuyama Crustal Movement Observation Station.